めいろうこどもえん　１月園だより

２０２１年度 年主題〈共に喜んで～すべての歩みの中～〉

0･1･2歳児１月主題　「あそぼう」

月のねがい

◎神さまに守られていることを感じ、知る(0)◎これまで馴染んできた遊びに加え、冬の遊びを楽しむ(0)◎自分ですることを望み、できるようになったことを喜ぶ(0)◎神さまに守られ愛されていることを知る(1.2)◎友だちと遊びを共有し、楽しむ(1.2)◎思いやあそびが尊重されて、満足感を感じる（1.2）

3･4･5歳児１月主題　「じっくりと」

月のねがい

◎友だちや保育者と礼拝を守り、聖書の話により親しむ(3)◎お正月の遊びに触れたり、新しいことに興味を広げ繰り返し取り組む(3)◎ｸﾘｽﾏｽからつながる平安と喜びの中、ｲｴｽ様のみことばを心に留めて歩む(4.5)◎好きな遊びにもそれまで経験していなかった遊びにも楽しさを見出し、繰り返しじっくりと取り組んで得る満足感を明日へと続けて行く(4.5)

今月の聖句「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。」　伝道者の書 12:1

主の年２０２２年、あけましておめでとうございます。園児や保護者、園の先生方にとりまして迎えたこの年が祝福に満ちた日々であるように、切に願い祈ります。

子どもたちは、大人が思っている以上に秘めた能力を持っているものです。乳幼児の心理や行動、脳の発達について科学的に解明する学問を「赤ちゃん学」と言いますが、近年の研究で、驚くほど多くの事実がわかってきています。例えば、世界中どの地域の赤ちゃんを調べてみても、生後5・6カ月以前には、LとRの発音をきちんと区別して聞き取ることができます。ところが日本語圏など、LとRを区別する必要がない地域で暮らす赤ちゃんは、成長するにつれ、こうした区別ができなくなっていきます。LとRを区別するのは余分な機能だと判断され、能力の「刈り込み」が行われるからです。顔の認識についても同様で、私たちは通常、人の顔の区別はできますが、サルの顔を区別するのは難しいものです。しかし赤ちゃんの場合、人の顔だけでなくサルの顔でも区別が可能なのだそうです。

この乳幼児・幼少期に、両親や周りの人々から沢山の愛情を受けて育つことが大切です。ジョン・ドレッシャーという人は、「親から十分に愛されて育った子供は、“愛する”とはどういうものか説明されなくても理解している」と言っています。そのような情緒豊かな人は、人間の背後におられ、生きて働いている神さまの愛も見出せるようになるでしょう。聖書は「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ」と語ります。今年もこども園で子どもたちが積み重ねる沢山の経験は、その思い出と共に子どもたちの生きる力となっていきます。子どもたちの豊かな成長を見守っていきましょう。　　協力牧師　池田基宣

１月の行事予定

11日（火）	３学期始園式(1号:午前保育)
12日（水）	１月生まれ誕生会
14日（金）	避難訓練
15日（土）	父母会役員会(am10:00~)
21日（金）	おゆうぎ会予行　**※弁当日**
29日（土）	おゆうぎ会
31日（月）	１号振替休日（2･3号希望者）

２月の行事予定

3日（木）	２月誕生会
10日（木）	冬の一日遠足　**※弁当日**
14日（月）	試走(予備日１５日)
19日（土）	持久走大会
21日（月）	持久走大会予備日
25日（金）	参観日(たんぽぽ･こすもす)
〃	試食会(こすもす)
28日（月）	参観日(あじさい･すみれ)

２・３号認定児
新規入園申込受付期間
１／１７（月）～２８（金）

定員に限りがあります。お早めに市福祉事務所へお申込み下さい！
必要書類は園にもございます。

おゆうぎ会

おやち劇団

持久走大会

目には見えないけど確実に成長！

新年あけましておめでとうございます！年末年始は、ゆっくりお過ごしになったしょうか？

昨年のことになってしまいますが、クリスマス会では、コロナの影響もあり、人数制限の中での実施となりました。4，5歳児の聖誕劇は、舞台がメインの劇でしたので、少し窮屈に感じられた方もおられたことでしょう。

さて、そのクリスマス会の劇でのこと。実は、私は大きな失敗をしてしまいました。それは、博士たちが最初に使う巻物を、後半に献げる宝物と一緒に置いたままスタートしてしまったのです。彼らが椅子から立ち上がる時に、なぜかこちらを見て指を指すのです。その時、はっとして失敗に気づきました。 でも、博士たちは、その異変にも動じることなく、巻物をとり、何事もなかったかのように自分たちの役割を演じきりました。

その後、「巻物がないとわかった時どうしたの？」と聞きました。すると、所定の場所に座った時に一人が気付いて、すぐに隣の子と「後で取りに行こう！」と話し、静かに出番を待っていたのだそうです。それを聞き、子どもたちへの感謝の思いで胸旨がいっぱいになりました。また同時に、しっかり表現ができたことも目に見える大事な成長でしたが、それ以上に、想定外のアクシデントに動揺もあったであろう中、自ら考え行動できたことに、目には見えない成長を感じた一場面でした。

もし、 DVD を購入されたり、動画を撮られた方は、改めて見てみて下さい。そんな裏話があったとは思えないぐらいの落ちついた姿を見せていた博士たちでした。

さて、3学期は、いよいよ集大成の学期です！子どもたちも自分たちの居場所を見つけ伸び伸びとしています。でも、新しい環境になる準備も同時にしていきますので、不安定になる時期でもあります。子どもたちの心の変化を見逃すことなく、寄り添いながら過ごしていけたらと思います。

３学期も保護者の皆さまには、たくさんのご協力をいただくかと思いますが、何卒よろしくお願いします。　　森山

主体性を育む環境

新年明けましておめでとうございます。皆様ご健勝の内に、二〇二二年（令和四年）をお迎えになられたことと存じます。本年も、皆様にとって希望に満ちた素晴らしい年でありますよう心からお祈りいたします。

コロナも随分落ち着いてきたねと言っていた矢先、例のオミクロン株が、超が付くほど急激に広がり始めました。感染力が非常に強いという情報どおり、その勢いが止まりません。またまた様々な業種に影響が及びそうで心配です。三学期も大切な行事や活動が待っています。願わくは多くの方々と共に楽しむことができますよう祈らずにはいられません。

先週の土曜日、熊毛地区の私立幼稚園教師研修会が屋久島で開催されました。まさに二年ぶりの対面での研修会でした。長い間リモート研修に慣らされていたので、とても新鮮に学びを深めることができ感謝でした。その中で、来年度の熊毛地区の研修テーマとして、『子どもの主体性がいきる保育者のかかわり』を与えられました。

主体性を考える時に、「主体性とは何か？」を問われて、明確に答えることは意外に難しいことに気付きました。発達心理学の鯨岡峻先生によると、「主体」という概念には「私は、**私**として生きる」という側面と、「私は、**私たち**として生きる」という側面があるようです。前者は、「自分の思いどおりにしたい、自分でしたい、これは嫌いだ」等の気持ちのことで、「自己効力感・自己肯定感・意欲」を得る欲求と言えます。後者は、「みんな一緒がいい、安心できる、幸せを感じる」等の気持ちのことで、「信頼感・繋がる喜び」を得る欲求です。この二つの相反する欲求のバランスが取れた状態が主体的な状態であるとの考えです。自分の思いを充実させたいことと他者と繋がりたいことのバランスが取れるようになることは、子どもの成長には欠かせないことではないかと思います。集団の中では、それぞれにしたい遊びの主張がぶつかることがあります。自分のしたい遊びを我慢して、どれか一つを選ぶことができるのは、友だちと繋がっていたい欲求が自己を充実させたい欲求に勝ったからです。無理に我慢を強いることより、他者と連帯したい気持ちを強く持てるよう援助していかなければと思います。ニートや引きこもりなど自分の持てない若者が今も多く存在します。幼児期に自分の意思で遊び込むことは、たくさんの喜怒哀楽の経験を重ね、自信となり、主体的に生きるための基礎となるでしょう。日常の遊びが子ども主体で展開していくためには、園内の環境構成（ヒトとモノ）が何より大切です。こどもたちを引きつけ、安全を確保しながら仲間と一緒に挑戦していく『遊ばずにはいられない魅力的な空間』を整えていければと願っています。

三学期は、年長児にとってこども園生活最後の学期です。幼児教育の仕上げの時でもあります。それぞれの子どもたちにとって、思い出深い魅力いっぱいの日々にできるよう努めてまいります。保護者の方にも行事等でご協力をお願いすることになりますが、本年も宜しくお願いいたします。　　園　長

《思いを出し合いながら　友だちと一緒に遊ぶ喜びを感じる》

３学期も始まる頃になると、子どもたちは友だちと会話しながら一緒に遊ぶ事を楽しみます。

気の合う友だちと安定して遊ぶようになると会話は頻繁になるのですが、その集団を仕切れる子とそれに従う子が固定化しやすくなったりします。発言はしていても、自分の思いを相手にきちんと伝えらないでいることもよくあります。仕切る子どもが一方的に他の子どもに指示を与えている姿を見ると、保育者はその子どもに
「相手の気持ちを考えて行動するように」
という主旨のことを伝える事がままあります。しかし、そのように大人が先回りしても、子どもたちの中に必要感がない限り関係性は変わりません。ここでは、周りの子どもたちが自分の思いを伝えることが出来るように粘り強く保育者は援助していきます。大人の先回りの言葉より、生活やあそびの中での友だちの本気の一言がより響いていくことでしょう。

松本信吾＝編著（広島大学附属幼稚園）